小須戸公民館報

発行所 小須戸町 中央公民館
発行人 岡 謙吾
発行日 毎月15日

読書は心の栄養です

～これから育つ子のために～

中央公民館では、図書をより身近かなものとして利用できるように努めています。本に親しみ、生涯学習の一助として利用できるように心掛けています。

「テレビ映像」が浸透している時代の中で、家庭での「本」に対する在り方について考えてみましょう。

中央公民館の図書活動は今……

☆親子文庫

幼稚園児を対象に幼稚園・二葉会の協力を得て貸し出しを行っています。

子どもたちは、絵本や物語が大好きで貸し出し日には借りる本を大事そうに抱えて順番を待っています。実にほほえましい姿です。この本を家へ帰って、お父さん、お母さんから読んでもらっているのでしょう。

幼稚園の先生方や二葉会のみなさんからこの親子文庫のねらいについて聞いてみました。

一、絵本や物語を親に読んでもらうことにより、親子のスキンシップをはかり子どもが文字に親しむようになる。

二、本に親しませる習慣をつけさせ、あたかも自分が本の登場人物になり、テレビの映像とは違う一つの動かぬ絵を通しながら空想の世界に入り創造の向上につながる。

※親子文庫で読まれている本 ベスト5

一位 わー 恐竜だ！
二位 おふろやさんぶくぶく
三位 ぶたのたね
四位 こわいこわいうさぎのお話
五位 たんじょうびのごちそう

☆移動図書

ふれあい会館を利用して、現在約一千冊を備えています。

昨年の貸出状況は、一、五三四冊（子ども一、〇〇四冊・大人五三〇冊）で子どもの利用度が大人の約二倍となっています。

特に、六月から八月までの貸し出し状況が約四割を占めています。

☆図書室の夜間開放

毎週月曜日の夜間に図書室を開放しています。他市町村では余り例のないことです。

このことは、当町の図書室が一般の愛好家によって始められたことが伝統として継承されて来たためであり、便利で借りやすいということで町民のみなさんにより多くの本に親しんでもらうという図書室の目的に大きく寄与してきたものと思います。

絵本 いつぱい読んでるネ――

幼ない子どもへの読み聞かせ

読書のはじまりといえば、小さい時からの読み聞かせから始まり、その影響力は大きいと言われています。

読み聞かせすることによって考えられることは、

一、イメージ（心の中に思い浮かべる像）をつくり出す力が伸びる。

二、感動する心が豊かになる

三、言葉が豊かになる

四、知的好奇心が芽生える

五、話を聞こうとする意欲や態度が育つ

このことにより、小さい子どもは自分のために、生懸命相手になってくれる母親に対して信頼感が生まれ、本に感動を受け新たな発見をすることにつながっていくのではないでしょうか。

学校教育の場でも本は多く読まれています

小須戸・矢代田小学校並びに小須戸中学校では六千～一万数千冊の本が置かれています。

小学生が本を読む率は、圧倒的に中学生より上回っています。

特に、小学校低学年の児童がより多く本を読んでいます。一学期に約二百冊を読んだ児童もおります。

ここで、矢代田小学校の子どもさんの声を紹介します。

〈本を読んだこと〉

三年一組 土田祐輝

ぼくは、学校で本をたくさん読んだと聞いて、びっくりしました。どうしてかというと、ぼくは本を読むのがあまりうまくないからです。

だけど、短い本をたくさん読みました。とくに、おもしろかったのは星の一生とうら島太郎です。短くてもおもしろい本をえらんで読んだら、ぼくはいいと思います。

映像メディアと文字文化をつなげよう

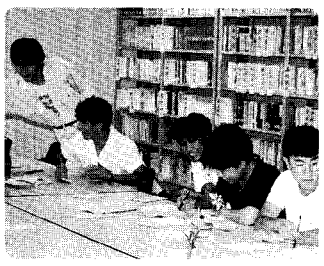
しかしながら、最近のテレビに代表される様々な映像メディアの普及によって急速な活字離れという現象がおき、図書室でもその対策に苦慮しているのが現実です。確かにテレビに代表される映像メディアは分かりやすく面白くその魅力は計り知れないのですが、はたしてそれだけで良いのでしょうか。

映像メディアは一過性の性質が強く、次から次へ送り出される映像の洪水に押し流されてなかなか心の糧として残りにくいのです。それに対して文字から吸収された感動は永く心に刻みこまれます。この文字の持つすばらしさも大切にしなければならないのです。

家族でみんなが読書を……

幼ない子どもは本が大好きです。中学・高校、おとなになるに従って読書が少なくなるようです。家族揃って進んで本に親しめば、その姿を見て子どもの読書好きはおとなになっても続くのではないでしょうか。

家族みんなで本を読むのは普通のことに！を心掛けましょう。



皆さんに親しまれている公民館図書室

ちょこっと一言 (80)

『たのしかった一日』

諏訪町一 石田真紀子ちゃん

わたしは、きょう（十月二十三日）、ちょうみん体いくかんへ行きました。ちょうみん体いくかんでは、さんぎょうまつりをやっていました。

十一時に行ったら、牛にゅうをくばっていて、そのままならびました。そのあと、月見うどんを食べました。かき氷を食べたあとに、花がらのポーチを買いました。

一時になったら、ねつききゅうとたこあげがありましたが、自てん車みたいなゲームをやっていたので、ねつききゅうがとぶところを、見られませんでした。だけど、とおくのほうに、すこし見えました。

たのしかったので、らい年もやってほしいと思います。

小須戸町教育委員に就任

矢代田五 堀川 益二さん

花と緑の小須戸町。この恵まれた自然の中に育ち、次の世代を担う子供たちの教育にかかわることになりました。

教育委員会の制度や目的をよく理解したうえで、バランス感覚を失なわないようにしながら重責を果たしていきたいと思っています。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

小須戸町手話教室へ

「手話教育ビデオ」寄贈される

十月六日（木）日本生命労働組合新潟支部より、小須戸町手話教室へ「手話教育ビデオ」五巻が寄贈されました。すばらしい教材を手にした手話教室では早速、毎週木曜日の練習日に活用していきます。

どうもありがとうございました。

糖尿病教室「お正月料理を楽しむ集い」のお知らせ

お正月の料理は、お餅やあんこ等、カロリーの高い物が多くついコントロールを乱しがちです。家族一緒にお正月料理を楽しむために、上手な食べ方をぜひ一緒に学びましょう。

日時 十二月二日(金) 午前十時～十二時三十分
会場 中央公民館 会議室
内容 「お正月料理の楽しみ方」 調理実習・会食・話しあいなど
申しこみ 糖尿病の方または、御家族の方で希望者は、十一月三十日(水)までに役場保健福祉課保健婦まで御連絡下さい。（☎三八-二一一一）

第三十九回 小須戸町剣道大会 一般男子大健闘!!

十一月三日（木・祝）町民体育館・中学校体育館において、約千五百名の参加を得て、第三十九回小須戸町剣道大会が開かれました。

年々参加者も増え、北は新発田市、南は三島郡からと遠方からの団体も多くありました。

―成 績―

〈一般男子〉
優 勝 和島剣道クラブ（和島村）
準優勝 小須戸町剣道連盟
三 位 翔鷹会（新潟市）
三 位 葦原剣友会（新潟市）

〈家庭婦人〉
優 勝 山ノ下地区剣道教室（新潟市）
準優勝 五泉市剣道連盟
三 位 小須戸町剣道連盟
三 位 岩室剣士会

〈中学男子〉
優 勝 神宮剣道錬成館（新潟市）
準優勝 山潟剣道教室（新潟市）
三 位 小須戸中学校
三 位 宮浦中学校（新潟市）

〈中学女子〉
優 勝 安田中学校
準優勝 山ノ下中学校
三 位 小須戸中学校
三 位 分水中学校

〈小学生〉
優 勝 山ノ下地区剣道教室
準優勝 皐月剣士会（白根市）
三 位 神宮剣道錬成館
三 位 小針剣道教室

文化祭
第二十回 町民展
今年もご来場いただきありがとうございました

小須戸町も十一月三日から六日にかけて、色々な催し物が開催されました。

町民展では、二百三十六作品が出品され大いに盛り上がりました。特に、町民展の会場を二会場（三階ホール・二階視聴覚室）に分けました。今までは三階にビッシリと作品が展示され手狭まになった会場を少しでもスペースをつくり、ゆったりとした気持ちで見ていただくようつくってみました。

又、文芸展・生花展・公民館活動展・婦人会・サークル〝あおぞら〟・手をつなぐ親の会・下水道展等多数の団体より工夫をこらした展示やイベントの協力をいただきました。

これらの催し物は、みなさんの創意と工夫で成り立っています。又、多くの方々からの協力のたまものと感じております。

他会場では、矢代田分館文化祭（十月二十九日～三十日ふれあい会館）・新保分館文化祭（十一月二日～三日新保地域研修センター）にも大勢のみなさんからご来場いただき、重ねて御礼申し上げます。

※新保分館文化祭菊花展受賞者（敬称略）

町長賞　川瀬　ヨネ（文京町二）
公民館長賞　斉藤長太郎（竜玄）
新潟日報賞　川瀬　トメ（竜玄）

10月のナイスショット

12日　あすなろっ子広場
おいしい手作りおやつ、早く食べたいなあ～。

14日　花いっぱい教室閉級
色々な花の知識を学習しました。

15日　親子チャレンジ教室
元気に育ったサツマイモ　大豊作！

第十二回町民俳句大会 受賞発表

一般の部四十五名、高校生の部十二名、中学生の部一五八名、総句数三〇四句という多数の応募ありがとうございました。

各部門に次の方々が入賞されました。

おめでとうございました。（敬称略）

〈一般の部〉

町長賞　丸山　虚秋（ウデコキ二）
議会議長賞　間野　良遊（新保二）
教育長賞　間島　秀穂（口根市新飯田）
中央公民館長賞　吉田　ミナ（横川浜）
文化協会長賞　丸山　栄子（ウデコキ二）
俳句同好会長賞　五十嵐香月（ウデコキ二）

〈高校生の部・新津南高校〉

町長賞　塚野　哲
議会議長賞　長沢いずみ
教育長賞　吉井　亮子
中央公民館長賞　谷井　和宏
文化協会長賞　高橋　裕美
俳句同好会長賞　野崎　雅美

〈中学生の部〉

町長賞　新井田　恵（天ケ沢二）
議会議長賞　上田めぐみ（本町五）
教育長賞　奈良沢　聡（矢代田八）
中央公民館長賞　増井　友美（矢代田二）
俳句同好会長賞　髙野　尚美（小向）

寄付御礼

第四回町民親善ゴルフ大会実行委員会より金八万円を町体育協会へ体育振興発展の為にと寄付されました。

ありがとうございました。

小須戸町手話教室「特別賞」を受賞

十月二日(日)柏崎市において第十八回新潟県手話まつりが開催されました。

今年の受賞演技は、「埋もれた楽園～青年よ大志を抱け～」

このテーマは、ゴミ問題という大きな社会問題を取り上げた内容の劇です。

皆さんは、この日の為に練習を重ね夜遅くまで先生方の指導をいただき、演技指導や演技時間などチェックをしながら時間の経つのも忘れるくらい熱心に取り組みました。

参加者は小学生から高齢の方を含め二十四名のみなさん!!

大変ご苦労さまでした。

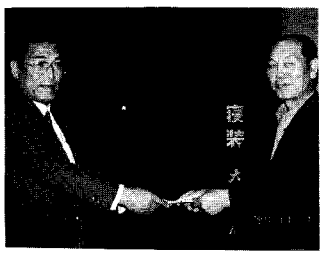
山の手地区親善第二回チャリティーゴルフ大会結果

（敬称略）

優勝　阿達宏通（矢代田十）
準優勝　本多孝次（新津市）
三位　田沢義則（矢代田七）

御礼

矢代田小学校へ図書室文庫用にと第二回チャリティーゴルフ大会より金三万円が寄付されました。ありがとうございます。



第十回町長杯争奪 小須戸町ゲートボール選手権大会

十月十二日(水)ふれあいゲートボール場において、八チーム総勢約六十名の選手が集い、予選リーグ・決勝トーナメントと熱戦が繰り広げられました。

―成績発表―

優勝　矢代田Bチーム
準優勝　矢代田Aチーム
三位　新保チーム
敢闘賞　横水チーム

催し物ご案内

栄養改善料理講習会（食推協議会）

日時　十一月十九日(土)　午前十時より
会場　矢代田公会堂
内容　骨粗しょう症予防食

「福祉とのふれあい講座」のお知らせ

日時　十一月二十二日(火)　午後一時から
会場　老人福祉センター
内容
●「小須戸町における福祉の推進について」
町保健福祉課長　佐藤清さん
●「ボランティア活動を広げよう」
新潟市ボランティア連絡協顧問　橋本光子さん

※マイクロバスを運行します
鎌倉9:12:30→（各バス停に止まります）→矢代田駅9:12:35→新保正福寺角12:40→新保神社前→福祉センター着12:50

主催　小須戸町社協

第二回 生きがい講座

町内の高齢者のみなさんが、いつも心身共に健康で豊かな気持ちで過ごされることを願って開かれています。

近隣お誘いあわせておいでください。

日時　十一月二十九日(火)　午後一時三十分から
会場　老人福祉センター
内容　「自分史を書いてみませんか」
講師　会田　馨さん（新津市山谷町）

十二月のおもしろ雑学講座

「自然と共に健康で楽しく生きよう」～薬草茶と水飲み健康法～

日時　十二月九日(金)　午後七時三十分から九時
会場　中央公民館一階会議室
お話　和泉　修治さん（県立常盤高校長）

第九回クリスマスの集いと もちつき大会

小須戸町手をつなぐ親の会と小須戸町教育振興会特殊教育部共催による「第九回クリスマスの集いともちつき大会」が開催されます。

入場無料、どなたでもお気軽においでください。

期日　十二月十八日(日)　午前十時から午後二時
会場　小須戸小学校体育館

※準備の都合上、参加希望者は役場福祉課へご連絡下さい。

リストアップ琴絃会

私たち琴絃会は昭和六十二年一月に小須戸町大正琴愛好会に仲間入りさせていただきました。

私たちが大正琴を始めましたのは、当時すでに大正琴が普及しており、友達から「貴女達も仲間を誘って一緒に練習しませんか」と勧められ、その音色と老後の楽しみの一つと思って始めました。早速友達をお誘いしたところ十五名の方が喜んで参加する事になりました。

会の名前は、琴源先生にちなんで会長さんが琴絃会と命名して下さいました。

最初は、琴も見た事のない私たちの集まりでしたから、それこそおっかなびっくり思うように手も頭も動かない毎日でした。

毎週月曜日に公民館で練習を重ね、特に第一、第三月曜日には先生の温かいご指導を受けながら少しずつ上達し、すっかり楽しくなり今では大正琴のとりこになりました。

平成二年には新潟県民会館に初めて出演させていただきました。何百人もの大観衆の前で出番が近づくにつれ、胸がドキドキ手がふるえました。でも、みんなで一生懸命頑張り無事演奏出来た感激を今でも忘れません。

これからも一歩一歩前進し、皆さんとのふれあいを大切にしながら頑張っていきたいと思っています。

文芸欄

川柳

平凡な暮しにあった落し穴　高橋ただし
平凡で互にゆずる大家族　松沢キヨ
あゝ、生きていたぞと思う朝の床　小見キン
平凡に幕引く温い種を播く　渡辺信子

短歌

寄せきたる波は鳴くごと砕けたり肌にしみ　吉田久次
くる秋の潮風
八木鼻の険しき岩の望まれる轍次の生れし　村山文子
家跡に佇つ
秋晴水のぬけるが如き大空にひこうき雲の　鈴木ハナ
二筋の道
赤松の宙に留まる蜂の群れ脚垂しつつ慈に　我妻清作
入りゆく

俳句

児の髪にコスモス挿して散歩かな　松沢キヨ
むづかる児外へ誘なふ赤のまま　間野えり
ひつじ田の小さな御堂邑むいて　東樹チヨ
神籬の深き闇より虫の声　吉沢文子
露地の奥空家一軒蓼の花　吉田ミナ
ふるさとに吾も赤紅見て偲かず　佐久間久子
胡瓜倒して風にあらたな道ひろぐ　間島秀穂
足元に水の澄む音神まゐり　内山越楼